

アジアと女性解放

Asian Women's Liberation

アジアの女たちの会

連絡先・横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘112
県住公社147・五島昌子

13.1.22



もはやわたしたちは
ただ「労働戦士の母」となるのではなく
わたしたち自身が「労働戦士」となるのだ。
もはやわたしたちは
ただ「人民の烈士の妻」ではなく
わたしたち自身が「人民の烈士」になるのだ。
スギアトリ・シスワティ
インドネシアの女流詩人。1966年以来10年
間獄中にある。

1977
No. 1

創刊準備号

— アジアと女性解放 —

私たちの宣言

日本が明治維新以来なしたげた「近代化」は、すなわちアジア侵略の歴史であり、この百年の間を生きてきた女たちもまた侵略に加担したアジアへの加害者であった。この事実を、私たちはいまようやくたたかうアジアの女たちから学びつつあります。

自立と解放を願いつつも、国是とされた富国強兵策の下で、日本の女たちは、「女工哀史」に代表される安価な労働力として日本資本主義の発展を支え、銃後の守りとして侵略戦争の一翼を担ったのでした。封建的家父長制のもとで、自らの人生を選ぶことも許されず、差別され、抑圧され、忍従の生を強いられながら——。

敗戦後の日本は、アメリカ陣営の一員としていち早く復興をなし遂げ、朝鮮、ベトナムで流された血の上に高度経済成長の時代をつくり上げました。この時代を生きている私たちは、祖母たち、母たちとどれほど違う生を生きているでしょうか。女であるが故の差別、抑圧は、今なお私たちの周囲にいく重にもはりめぐらされています。国内では自立した生き方をはばまれながら、アジアにたいしては、経済侵略の一担を担わされる——こうした今日の女の状況は、実は、戦前の女のあり方と本質的にどこがちがうでしょうか。

今日、東南アジアや韓国など第三世界で、女たちは、民族の解放と女の解放のふたつのたたかいに起ち上っています。このふたつは切り離せないことを彼女たちは私たちの前に示しています。

「アジアの女たちの会」は、「キーセン観光」「入管法」、在日朝鮮人の差別問題、あるいは韓国の「政治犯釈放」などの運動に参加してきた女たちが、ほかのアジアの人びとの生活についてあまりにも知らなすぎるという反省から、月に一度集まって「もつとアジアのこ」として学ぼう」と一九七四年八月に発足した会です。メンバーそれぞれが参加してきた運動、かかえている問題はちがっていましたが、日本の女として戦争責任を問いたびアジアの人びとを抑圧する側に立ちたくないということがみんなの一致した出発点でした。

まず、アジアに生きる女たちは、どんな歴史をあゆみ、どんな状況におかれているかをいろいろな角度からまず知ること、と、毎月一回の例会で、各国についてのセミナーを開いてきました。

その順番に勉強したテーマを紹介します。

- ☑ 第一回（一九七四年八月）タイの女子労働者（塩沢美代子・松井やより）
- ☑ 第二回（九月）ベトナム女性の闘い（ダオ・チ・ミン）留学生
- ☑ 第三回（十月）韓国女性解放運動の歴史（金好子他）
- ☑ 第四回（十一月）インドネシアの女性たち（鮫島晋助・都子夫妻）元特派員
- ☑ 第五回（十二月）日本植民地支配下の台湾女性（戴国輝）在日中国入学者
- ☑ 第六回（一九七五年一月）戒厳令下のフィリピン（国府田恭子）
- ☑ 第七回（二月）マレーシアの女性（林樹君）留学生
- ☑ 第八回（三月）アメリカに生きるアジアの女性（李雲子）在米韓国人、カリフォルニア大

中中中中中中中中中中

これまでしてきたこと

中中中中中中中中中中

- ☑ 第九回（五月）孔子批判運動の中国女性（小島麗逸）アジア経済研究所員
 - ☑ 第十回（六月）アフリカの女たちの闘い（北沢洋子）
 - ☑ 第十一回（七月）国際婦人年メキシコ会議に参加して（松井やより）
 - ☑ 第十二回（九月）第三世界の女性解放（黒沼ユリ子）在メキシコヴァイオリニスト
 - ☑ 第十三回（一九七六年三月）第三世界と文化活動（黒沼ユリ子・広瀬量平）
 - ☑ 第十四回（九月）被爆朝鮮人（いぬい・とみこ）児童文学者
 - ☑ 第十五回（四月）民主教団宣言の女たち（山口明子）キリスト教協議会
- アジア各国の女性についてひと通り勉強する中で、今、最も緊急な関心を向けなければならぬのは、韓国だということになり、「日韓女性セミナー」を開きました。五月から七月までの三ヶ月に集中して。
- ☑ もつと生きたい（高史明）作家
 - ☑ 朝鮮人慰安婦とキーセン観光（金一勉）歴史家
 - ☑ 植民地政策と日本人女性（任展慧氏）日本文学研究者
 - ☑ 韓国女性解放と儒教（鄭敬諱）評論家
- 私たちの生活の中にある韓国（問題提起）在日韓国女性たち）
- 以上五回の連続セミナーを開催し、多くの参加者を得ました。
- 秋からは、「中国に住んで、学んで、働いて」（松井やより）「タイ、ハラ・ジーンズ女子労働者の闘いの記録」（加地永都子）「アメリカ・メキシコの旅から」（富山妙子）などと続き、新しい年を迎えました。一九七七年を迎えて新たな行動を起こしたいと思えます。



一九七五年、国際婦人年メキシコ会議の席上で、第三世界の女たちは、「もつとも差別されている女性とは、子どもたちにパンも教育も医療も与えてやれない母親たちである」と叫びました。この声に私たちは耳をふさぐことは許されないので。なぜなら、このような飢えをつくり出しているのは、日本も含めた先進工業国であり、世界中の市場の独占をめざす巨大企業なのですから。

かつて、中国、朝鮮半島をはじめアジアの国々で、焼き、殺し、奪い、女たちを犯す侵略の先兵となつたのは、私たちの肉親であり、友や、恋人でした。そして今、私たちはこれ以上夫や恋人を経済侵略、性侵略の先兵として送り出す女たちであり続けることは拒否しようと思いません。この決意なしには、私たちは自身の解放は決して現実のものにはならないでしょう。私たちは今ここで、アジアの姉妹たちに深い謝罪の気持ちを表わすとともに、彼女たちのたたかいに学び、連帯する日本の女のたたかいかいをつくり上げる決意を新たに、出発することを宣言します。

朝鮮の女たちが、日本の支配に抵抗し生命をかけた三一独立運動の記念すべきこの日、新たな一步を踏み出さんとする私たちは、このたたかいかいの輪を、しっかりと広げていきたいと思えます。

一九七七年三月一日

富山 妙子
湯浅 れい
松井 やより
山口 明子
安東 美佐子
五島 昌子
加地 永都子

これからしたいこと

私たちは二〇〇一年をむかして、アジアの女たちと共に女性解放を考え、女たちの連帯の場を作るために次のような計画をたてています。

I 「女大学」

アジアの国々の歴史、政治、経済を学ぶことから始めて、日本の経済侵略や性侵略などを、自分自身の課題としてとらえ、さまざまな行動をおこしていきたい。これまでの女性差別思想を打破り、女性自身の意識変革をもちとる意味をこめて「女大学」と名づけました。毎月一回の割で講座をもちます。一学期四〜七月、八月は合宿。二学期九〜十二月。講座のほかには東南アジアへの現地調査の旅や文化祭なども計画しています。

II 「学習会」

私たちはあまりにもアジアのことを知らなすぎるので、今まで刊行されている本やニュースをもとにレポートしたり情報交換したりして、活動の方向を討議します。

III 「アジアと女性解放」(日本語)と「Asian Women's Liberation」(英文)

というニュースレターの発行。

「女大学」の講座内容や学習会での討議、調査報告、日本やアジアの女の活動報告などを掲載します。ゆくゆくは情報交換センターの役割を果たしたいと考えています。英文ニュースレターはアジアの

女の声を広く知らせるため、アジア諸国だけでなく、欧米の女性解放グループにも送ります。英語、朝鮮語、タイ語、インドネシア語、中国語など語学のできる方の参加をお願いします。

IV 「アジア語学勉強会」

アジアの人たちの生活や考え方を知り関心の記録、報告を読むため、私たちの仲間を読める人、話せる人を作りだしましょう。小人数で語学グループを始めます。

V そのほか「地方との交流」

たとえば「火種」プロ「縛られた手の祈り」のスライドをもつての地方巡回活動など。東京での活動の報告、情報をもつて地方に。そして地方の問題を東京にこの活動を丹念にくり返すことによって都市と農村の分断を埋め、東京の一部活動家の運動といわれる根の浅さを克服し土着の文化を創造することをめざしています。「生活展、芸術祭、バザー」その国の歴史や風土、そこに生活する人々を知るために、各国の文芸、絵画、映画、民芸品、食品などの紹介や、お祭りを通じて、楽しい話し合いの場を作りたい。信頼し合える関係を作りあげられるまで、息長い活動を続けていきたいと考えています。



私のひまわり

アジアの未来の歴史をつくるのは、女たちだろーう——これは単なる希望ではなく、東南アジア各地で働く女たちが私に与えてくれる実感である。さて、日本の女である私たちは真の意味でのシスターフッドを築いてゆけるだろうか。

日本の女たちとアジアの姉妹たちをつなぐ糸は、よそめには細く、すぐ切れてしまいうのであっても、思いがけず、しなやかで強靱なものであるかもしれない。私たちは、その一本の糸の紡ぎ手になりたいと願う。

山口 明子

「アジアの女についての情報ならあそこに聞けばよい」といわれるような会にしたい、けしからん進出企業の一つや二つ退散させるぐらいの運動にしたい——夢は大きく、行動は地道に、というのが私のモットーです。

松井やより

父は日中戦争に従軍して亡くなり、夫は日

本が植民地として踏みについた朝鮮で生れた私には、アジアの問題を避けて通ることは許されないのだ、と思う。とにかく歩みはじめたい。

安東美佐子

私は一画家として、日本の美の価値規準がいかにも西洋追従、アジア蔑視に貫かれていたかを痛感した。また女にとつては文化そのものが、いかに男中心に成立っているかを身にしみて知らされるのだ。これらの変革を通じて「アジアの女たちの会」に参加したい。

富山 妙子

私たちはアジアと本当に出合えるのだろうか。アジアの国々と日本国のかかわりの中でいつもつきまとう思いである。アジア人のひとりとして私の「アジア」をこらえたい。

五島 昌子

戦いの前夜かくも無気味な平和と静寂。抵抗に疲れ、人々は極度な無感覚の中に声をあげなくなつてしまった。女たちはよき妻、よき母となることを生涯の選択とせられて、あらためてアジアに視点をすえた活動にとりくみたい。

湯浅 れい

あなたも会員に!!

女にとってアジアは一見遠い世界のように見えるけれど実はとても身近にあるのです。安売りのプラウスが香港、つげものはフィリピン、のりは韓国、建築材はマレーシア、台所のガスはインドネシア……。このようにアジアは私たちの生活の中に深く入ってきています。遂に日本がアジアに出しているのは公害工場ですが……。あなたや、あなたの夫が勤めている会社はアジアとどんな関係にあるか考えてみたことがあるでしょうか。あなたが学校で学んでいることがあまりにも西欧中心であることに疑問を持ったことはありませんか。

アジアについて知ろうと思えばやることはいくらでもあります。新聞、雑誌の切抜き、図書館歩き、会社めぐり、労組訪問、手紙書き、翻訳……何でも私たち自身の手で始めなければなりません。やる気のある女性、体力に自信のある女性、語学に強い女性、アジアの女性の痛み知らん顔できない女性——。私たちの運動に参加して下さい。

(会費年間千円・入会申し込み五島まで)

女大学 アジアと女性解放 4月開講

第一学期

- 4月 アジアとの出会い方 鶴見良行
20日(水)
- 5月 経済侵略と女性 北沢洋子
- 6月 性侵略——この現実 {松井やより
加地永都子
- 7月 在日アジア女性との対話
- 8月 合宿(テーマ)アジアの女との連帯を
どうつくるか

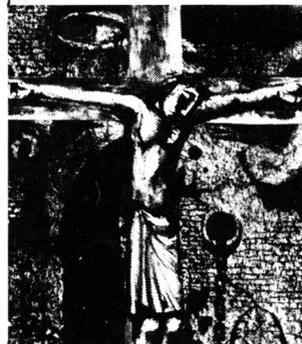
- * 毎月 第三水曜日 午後6時半
- * 会場 渋谷勤労福祉会館(パルコ前)
- * 参加費 300円
- * 問合せ 508-7070 (昼間のみ)

主催 アジアの女たちの会

金芝河の詩を主題として 絵と音楽による 連帯のメッセージ

スライド作品 「火種」プロダクション制作

しばられた手の祈り



制作スタッフ

- 原作 金芝河作品より
- 訳 鄭敬謨 ■企画 石版画
- 富山妙子 ■作曲 朴炯圭
- 林光 ■バイオリン 黒沼
- ユリ子 ■ピアノ 林光・高
- 橋悠治 ■歌 鄭敬謨 ■詩朗
- 読 伊藤惣一 ■ナレーター
- 林洋子 ■撮影 本橋成一・江
- 西浩一 ■構成 土本典昭・小
- 池征人・前田勝弘 ■制作
- 火種プロダクション

《火種プロダクション》・〒171 東京都豊島区池袋3～1555富山方
《ふいごの会》 上映の申込先・TEL9時～4時迄0422(44)5883 塚塚方